

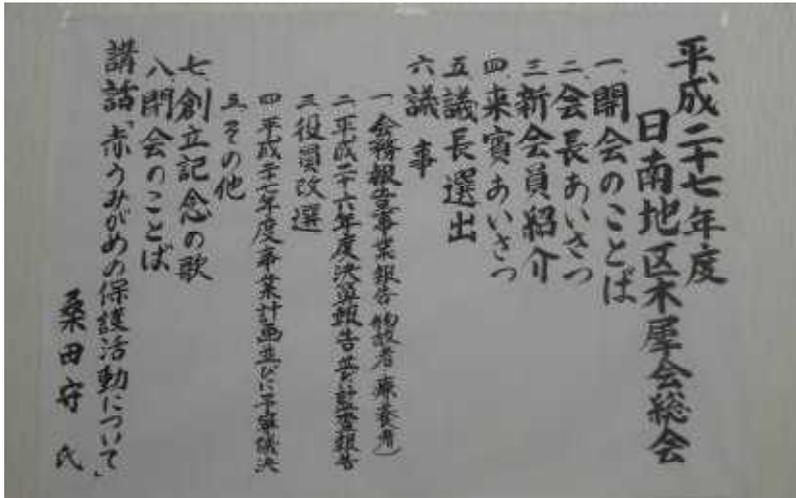
日南支会総会&祝賀式報告

4月4日（土）、日南第一ホテルで行われた「日南支会総会&祝賀式」について報告いたします。当日は、朝の内小雨、開式の時刻は曇り空でしたが、支会の先生方の木犀会に対する熱い思いを感じた時間を過ごすことができました。

日南支会のますますの発展と先生方に御健康を祈念して写真を中心に御報告させていただきます。

【 会次第 】

【 会長あいさつ 】



【 会務報告 】

1 行事等について

- 平成26年度日南地区木犀会総会
 - ・ 4月5日（土）
- 新霊合祀・慰霊祭
 - ・ 11月9日（日）、附属小学校体育館
 - ・ 5名の参加
- 役員会
 - ・ 2月20日（金）
- 母校創立130周年祈念祝賀同窓会
 - ・ 2月28日（土）、JAAZMホール
 - ・ 8名の参加

2 米寿者（4名）…… 倉元正一氏、高橋スマエ氏
川崎利夫氏、岡本京子氏

3 お見舞い（2名）、物故者（3名）

【 新役員 】

- 副会長…那須千工子氏、理事…由浅 繁氏

4 協議

- 次年度以降の会費執行について
 - ・ 会員の高齢化（会費免除者：米寿以上）の増加と会員の減少による予算執行の現状と課題と規約改正

川崎会長の支会運営への厚い思いを感じた御挨拶でした。
先生御自身が健康を害されたこともあって、会員の先生方の御健康に対しても御配慮のあるあいさつでした。



（協議のようす）

【 講話 】

- 演題「アカウミガメの保護活動について」
- 講師 桑田 守氏（日南市野生動物研究会）

アカウミガメを観察しよう

観察できる時期

日南海岸での上陸・産卵は5月から9月まで続き、その様子は夜中～朝明けにかけて観察することができます。ふ化はおおよそ7月下旬から始まります。

（アカウミガメは野生動物です。産卵やふ化の時期や時間は決まっていないため必ず見られるとは限りません）

観察するときの注意

- ・アカウミガメをライトで照らしたり、フラッシュでの写真撮影はしないでください。産卵のため上陸した親ガメはとても敏感になっていて、警戒して産卵せずに帰ってしまいます。また子ガメは光をたよりに海へ帰っていく習性があるため、帰る方向がわからず迷ってしまいます。
- ・上陸中や、穴掘り中の親ガメには近づかないでください。驚いて産卵をやめ海に帰ってしまいます。
- ・上陸した親ガメや、ふ化して海に帰っていく子ガメを触らないでください。また、卵にも触れないでください。
- ・周辺では車のエンジンを停止し、騒いだりせず静かに観察しましょう。
- ・観察の際は卵や子ガメを踏んでしまう恐れがあるので、むやみに歩き回らないようにしてください。

観察できる場所

日南市では、風田・甲山、橋々浜、富士、伊比井、天童津、宮浦などで見ることができます。

アカウミガメの産卵と誕生

①上陸

アカウミガメは、だいたい夜の間に産卵のため砂浜に上陸します。警戒心がとても強いのですぐには上陸せず、周囲の安全を確かめながらゆっくり歩き、最適な産卵場所を探します。



②穴掘り

気に入った産卵場所を見つけると、後ろ足を交互に使って器用に穴掘りを始めます。途中、大きな石や根っこにじゃまされると穴掘りをやめて海へ帰ってしまう事もあります。後ろ足を伸ばし、砂がつかめなくなるまで掘ると、深さ約40～50センチ、直径約20センチほどの穴ができます。



③産卵

穴掘りが終わると、産卵を始めます。はじめは1億ずつ産み落としますが、だんだんと一度に産み落とす量が増え、おおよそ20分の間に80～150個ほど産卵します。同じ親ガメが1シーズンに2回～5回ほど産卵のため上陸するので、1頭あたり約500～600個を浜に産卵すると推定されます。



④穴埋め

産卵が終わると後ろ足で穴に砂をかけ踏み固めます。その後は前足で砂をはね飛ばし、産卵の場所をわからなくするためにカムフラージュします。すべての力を使い果たした親ガメは、疲れた身体を引きずりながら休み休みゆっくりと海へ帰っていきます。



⑤ふ化

砂の中に産み付けられた卵は、太陽の光と地熱により暖められて約60日前後でふ化します。しかし、5月から6月の雨期と重なり気温が低く、ふ化までに80日前後かかることがあります。また、7月・8月の暑い時期は40～50日の短い間でふ化します。中には無精卵もあり、全くふ化しない事もあります。

⑥脱出

最初にふ化した子ガメからすべての子ガメがふ化するまでには2～3日かかり、その間は巣穴でお互いにもがいています。夜中から朝方にかけてみんな一斉に地上に出できます。巣穴から出てきた子ガメは、朝日をたよりに海に向かって進みます。しかし、波に押し戻されたり、鳥に襲われたりして海までたどり着けない子ガメもいます。

保護活動の紹介



産卵した卵の保護



市民による清掃活動



講演活動



学校での保護啓発活動



孵化した子ガメの大半は海にたどり着くまでにカラスや水鳥の餌食となってしまいます。日南市では水際まで行って4～5千匹を放します。卵数は現在世界一です。年間 16,000 個の卵の保護をしています。日南市の砂は鉄分が多いので、地温が保たれるのです。観察は午前6時からにお願いします。

【 祝賀会 】

